

■■雨対策要変更■■

もはや無視しては過ごせない夏コミの雨。『コミケの日に雨は降らない』という神話も過去のもの。そんな雨のための対策もコミケットの状況に合わせて毎回のように更新されていく。慣れや思い込みではなく、毎回最新の注意事項に基づいた準備をして来場してほしい。

■行列では傘は使用しない■

ここ数回の本コーナーで告知しているが、現在のコミケットでは雨天の際でも雨傘を使用しないことを前提とした準備をしてきてほしい。

一般入場待機列であれ、大手サークルや企業の販売行列であれ、現在は行列を可能な限り圧縮して参加者を密に並ばせることで列さばきの効率を上げ、行列時間の短縮化を図っている。

ここへ参加者が1人1つつつ傘をさしたら、列はあつという間に数倍の長さとなってしまう。もちろんその分遠くまで並ぶことになって並んでいる時間は長引き、さらには周囲前後に対して傘の骨先をぶつけたり引っ掛けたり、傘を伝った雨水を浴びせたりというトラブルの元にもなる（少し想像力を働かせれば分かるが、相当痛いし不愉快で、何より傘の骨先はちょうど後ろに並んでいる人の目の高さにあるのだ）。

入場した後も（すぐにしまえる折りたたみはともかく）手に持った傘にひっかかった、先端で突かれた、濡れた傘を押し付けられたといったような様々なトラブルの種なのだ。

以上のような理由で、コミケット会場付近までは良いが、少なくとも会場最寄駅に着き、参加者が大勢周囲に存在するようになったら**傘は使用せず、レインウェア類で対応することを原則**と考えよう。

最近は自転車の運転中に傘の使用を禁止する法律も施行され、レインウェア類も豊富に販売されるようになってきた。コミケット会場もそういった特殊ケースと考えればよいかもしれない。

『レインウェアを着ての雨天待機なんてとても無理！』という参加者には、わざわざ雨の中を行列して下さいとは言わない。駅からビッグサイトまではほとんど傘の必要なく移動できることでもあるし、雨天の際には開場時間以降、入場待機列が解消しきってから来場すれば良いのだ。

待機するなら傘を使わなくても大丈夫なように準備を整えて。

これがこれからの雨対策の基本だと認識しておいてほしい。



■濡らすや、濡らさざるや？■

実際問題、着る物の方は、乾きやすく風通しの良いものを用意しておけばあとは上に着るレインウェアの性能（実際これが非常に大きく快適性を左右するが）で何とかなる。問題は靴とバッグだ。

靴もバッグも直接雨が当たりやすく、また濡れるとダメージも大きいだけに、ここはこだわっておきたい部分といえるだろう。

特にバッグは上からだけでなく横からも雨を受けることになるので防水性能にこだわるか、中身はあらかじめ密閉できるビニールバッグなどを用意してガードするのを忘れずに。

防水スプレー類は残念ながらほとんど効果が無いので頼って泣きを見ないよう注意。

購入した本にもそういったパッキングを施しておけば安心なので、本が入れられて密閉できる大判のジップ袋類（100円ショップなどでも購入できる）を何枚か用意していこう。また、脱いだレインウェアや濡れた折り畳み傘はしまう前にタオルで拭くとより安心だ。それでも雨の際は何かがあるか分からないので、ゴミ袋、コンビニ袋など何枚かのビニール袋は必ず用意しておくこと。

靴も濡れてしまうと靴ズレはじめ様々なフットトラブルの原因になりやすい。完全防水性能を売りにしているものも多いが、一旦濡れた靴は乾きにくいので、履き込んでいる靴は未だに新品時の防水性を維持しているか事前にチェックしておく与会場で悲しい思いをしなくてすむ。

逆に最近はサンダル型以外にも濡れてもすぐに乾くタイプの靴も多く出てきたので、そういったアイテムもよくチェックしてみよう。

ただし、濡れた素足で履いていると靴ズレやマメの原因となり、また足が皸れることもあるので、**濡れそうな場合でも靴下は必ず履くこと**。靴がすぐに乾いても靴下が濡れたままでは何にもならないし、逆に靴が濡れてしまった場合でも水分を溜め込まない化繊の靴下を履いていれば不快さが全く違う。濡れることを前提にするなら、靴下もそれに合った乾きやすいものを選び、どちらにしても代えの靴下は用意していこう。